

## Grasshopper

本日は4時間授業で、午後から学校はいよいよ「入学者選抜モード」に突入します。皆さんの多くにとっては「ラッキー」ということになるかもしれませんが…再三お伝えしたとおり、「アリとキリギリス」を思い出して、ぜひ有意義に過ごしてもらいたと思います！

日	月	火	水	木	金	土
15	16 2時間授業 会場設営	17 検査1日目 (休業日)	18 検査2日目 (休業日)	19 検査処理日 (休業日)	20 検査処理日 (休業日)	21
22	23 天皇誕生日	24 2限授業 検査処理	25 2限授業 会場設営	26 追検査 (休業日)	27 4限授業 検査処理	28
1	2 2限授業 判定会議	3 合格発表	4 45分授業 式場設営	5 3限授業 卒業式予行	6 卒業式	7

※ゴシック体の日は部活動禁止(いずれにしても27日から期末考査10日前になります)。

\*\*\*\*\*

因みに、「アリとキリギリス」の英語タイトルは“The Ants And The Grasshopper”となりますが、皆さんご承知のとおり、本来grasshopperは「バッタ」という意味ですよね。「キリギリス」にはちゃんとkatydidという単語があるのですが、イソップ寓話のタイトルとして検索してみると、ほとんどがgrasshopperを使っています。因みにcricketは「コオロギ」という意味ですが、bush cricketは「キリギリス」のことを指すそうです。もう日本人にとってはChaosですね…。

なぜこういうことが起こるのか？考えられ得る一つの説として、

日本人とポリネシア人は、他の民族と異なり、虫の声を左脳で聞く⇒言語として捉えるということが挙げられます。つまり、西洋人は虫の声を、単なる「音」として右脳で認識しているため、細かく区別していないという可能性があるのです。実際、コオロギが「鳴く」ことを表わす動詞はchirpなのですが、これは小鳥が鳴くことを意味することもあります。日本では、コオロギと小鳥の声を同じように感じる人は、まずいないと思うのですが…。

秋の虫だけでなく、セミの声も我々は明確に区別していますよね。酷暑の中でのミーンミーンには気持ちが萎えるものですが、カナカナカナというヒグラシの声には救われる思いをする人も多いと思います。そもそも我々日本人はセミの「声」と表現しますが、英語ではbuzz of cicadasと言うようです。あの、芭蕉の「閑(しずか)さや 岩にしみ入る 蟬の聲」が、「蟬の音」だと、ちょっと、と言うか、かなり印象が変わりますよね…。

脳についてのこの説にどの程度の真実味があるのか…興味ある人は色々調べてみてください。いずれにしても、虫や鳥の声の違いを感じ取れる感性を持っていることで、我々の日々の生活が少し充実したものになる気がします。